佐藤（さとう） 修孝（しゅうこう）
（政凛会）

- 間伐材の薪利用と鋳物ストーブの開発普及を！
- 病院の救急車の受け入れ対応と中学生に救急講習を

質問 いわて環境の森整備事業や森林・林業再生プラン事業で発生する間伐材を、市独自のエネルギー政策として薪として利用しては。文化生活を後退する事になるが、新しい価値観の創造で幸福度が上がるのでは。又、鋳物ストーブの開発をして、この間伐材利用の薪を燃料にする連携を試みては。

市長 大きく同意する。地域にある資源を利用して暖を取れる事は望ましい姿である。又、薪をエネルギーにする事で低炭素社会にも継がる事になる。鋳物ストーブの開発普及については、やるからには世界に通用するような商品を造る必要がある。既にある産学官連携の中で、モデル事業化を立ち上げる方向で検討したい。

切り捨てされる間伐材

質問 消防職員の提言の中で、救急車が現場に到着してから搬送先の病院が決定するまで時間を要する実態があるが病院間の協議が必要ではないか。又、病院側から受け入れ可能の発信ができないか。又、心肺蘇生に陥っている場合、現場に到着するまでの間救急処置のできる人が必要となる。中学生の段階から救命講習を必修科目にすべきでは。

市長 市内の救急搬送病院は、県立胆沢・江刺病院、水沢病院、奥州病院、まごころ病院、石川病院ですが、診療科目が細分化し専門医が不在の所は対応不可となる。

病院事業管理者 夜間や休日は1人体制で、でき得る最大限の対応をしている。病院側からの受け入れ発信は最良の方法ではない。

教育委員長 中学生の救命講習については24年度に充実を図る。全衛生推進委員会が機能することが必要である。その実行化と恒常的な超過勤務の解消の方途は。

教育委員長 2月末に安全衛生委員会を開催し、24年度の取り組みに係る基本的内容について協議をした。24年度第1回委員会で協議し、教育委員会、学校における具体的な取り組みにつなげていく。学校には校長会議で更に周知を徹底する。多忙化解消については、学校に対する調査依頼の精選や各種招集事業の参加体制の吟味などを行っている。

高橋（たかはし） 政一（まさいち）
（市民クラブ）

- 市民に分かりやすい財政表示のあり方は
- 小中学校教職員の安全衛生規程の実行化を求める

質問 市広報に予算・決算等の財政状況を掲載しているが、わかりやすい表示の在り方を工夫する必要があるのではないか。歳入、歳出だけでなく、財政状況を表す一覧表や分析表、各種指標などを使用することで可能になるのではないか。また、財政白書について市の考えは。

市長 地方分権の進展に伴い、財政運営について市民の皆さんに説明責任を果たすことが重要になっている。市の財政状況が極めて厳しい状況にあり、市民の協力を得ながら財政の健全化を推進していかなければならない。財政情報は分量が多く用語や指標も難解であるため広報誌の限られた紙面では限度がある。夕張市の財政破綻を機に財政白書をつくる動きが盛んになっている。理解が得られやすい公表の仕方や奥州市版の財政白書の作成について検討していく。

県内初の紫波町財政白書（しわの財政白書をつくる会編）

質問 昨年6月に奥州市小中学校安全衛生管理規定が制定された。安全衛生委員会や各学校に設置される安